



# 株式会社十字屋

**主要事業** 書籍・文房具小売業

**所在地** 〒753-0813  
山口市吉敷中東4丁目8番2号 維新ナインテラス  
TEL: 083-921-7100  
FAX: 083-921-7300

**代表** 今本 逸郎

**会社URL** <https://www.jujiya-net.co.jp/>

## ●会社沿革

- 1947年 創業
- 2000年 パーソナル文具の専門1号店として「CrossLand下関店」を開業
- 2005年 「CrossLand山口店」を開業
- 2021年 維新ナインテラスに移転、「CrossLand山口総本店」をオープン



今月号では、インテリア雑貨&デザイン文具のセレクトショップを運営される株式会社十字屋代表取締役の今本逸郎氏にお話を伺いました。

## ●会社概要

株式会社十字屋は、山口県内にインテリア雑貨とデザイン文具のセレクトショップ「CrossLand (クロスランド)」3店とオンラインショップ「文具のある暮らし(楽天市場、福岡事業所)」を運営しています。

山口市では、2005年より泉町で17年間営業していたCrossLand山口店をこの度閉店し、2021年11月1日複合商業施設「維新ナインテラス」に移転。「CrossLand山口総本店」として生まれ変わりました。

立地は山口市の維新百年記念公園最寄りの国道9号沿いの維新ナインテラス1階。これは「維新ナインテラス」という商業施設名の由来となっています。山陰からの道路出口や山口宇部道路の起点に近く、市内のお客様だけでなく、県内外のお客様にもわかりやすい場所と名前となり、より広域の集客につながることを期待しています。

移転とともに店舗名も「山口店」から「山口総本店」と変えました。山口市のほか、宇部市や周南市でも店舗を運営していますが、「総本店」とすることで規模の大きさや特別感を表現しています。

構想期間約5年。共同施設テナントとして数十社に当たり、その中から金子老舗、カメラヤ、



維新ナインテラスの外観

COFFEE BOY、fioretto (フィオレット)、焼肉みほり峠、エニタイムフィットネス、リトロップの7つのテナントと新たなスタートを切りました。複合施設になることで、様々な客層のニーズが高まり、より足を運びやすい憩いの場所となっています。

大切な人へのギフトや自分へのご褒美、普段使いの小物など、たくさんの商品を取り揃えています。来てよかったと思える店舗を目指しお客様の満足感・充実感が得られるよう企画運営しています。



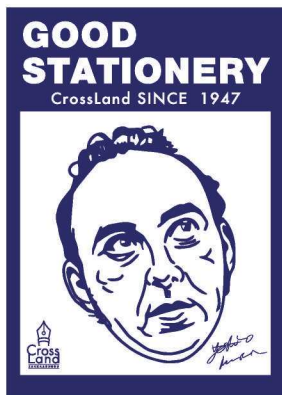
CrossLand 山口総本店の入口



## ●当社の特徴 ～ 「その個性に個性でお答えします」こだわりの店づくり ～

山口総本店は、来店された方に違和感を覚えてもらう(=五感に訴える)ようなつくりを目指しました。モダンな外観にもかかわらず、エントランスに「維」を染め抜いたのれんを下げるなど、和のテイストもあるユニークな佇まいとなっています。店内にかすかに漂う香り、木材を多用した温かな内装や什器の配置、白い壁に白い文字を乗せたエントランスのロゴサインなどお客様に「山口じゃないみたい」と思っただけならばと思ひ工夫を凝らしました。旧山口店のレジ後ろの壁面やショッピングバッグにも描かれていた外国人の





写真をあえて白黒で描き、尖ったイメージキャラクターとして新たに作り直しました。「画一的な物よりも尖っていた方が面白い」その象徴キャラクターです。

事務文具や学童文具などの売場では、他のカテゴリーとの違いを強調して、2段ほどの階段で高低差をつけています。このように「ノイズ」をあえて提示し、サプライズを感じてもらうことで、来店してくれたお客さまに、素敵な店舗だと感じてもらい、次の来店意欲を刺激することを意図しました。

今回「その個性に個性でお答えします」というキャッチフレーズを採用しています。お客様の様々なニーズにそれ以上の個性ある商品でお答えしようという意味です。

とくに重視しているのが若年層の需要開発です。文具のセレクトショップは、ともすれば顧客の年齢層が高くなってしまいがちです。そこで、文具を陳列したなかにビアマグやコーヒーカップ、萩焼の器などを配置して、若いお客さまに向けて既存のスタイルを超えた新しい生活シーンを提案しています。全体の7割は女性のお客様ですが、男性が好みやすい商品も多く置いているので、男性も楽しんでいただけるようなお店にしています。

店内設計も工夫しています。山口総本店は、隣接する和菓子の金子老舗やフラワーショップfioretto（フィオレット）、洋菓子のカメラヤとの間に壁を設けていないところがあり、店を行き来できるようにしました。それぞれのお客様が交流できるのも面白いと思ったのです。



地元企業とコラボした野帳

今はネット社会が拡大し、人の顔を見ずに物を購入できる機会も増えました。しかし、この施設は「人とのつながり」を大切にできるよう、なるべく人の顔が見えるようにしたいと思いました。人とのつながりや結びつきから「購入したい」という意識をつくれるのではないかと思ったのです。施設への愛着を高めるため、テナントや工業者もできる限り地元の方を採用しました。

商品開発にあたり、「地元愛着プロジェクト」と銘打って地元企業や山口県の名産品とコラボした「そえぶみ箋（メモサイズの便箋と封筒をセット）」や表紙に企業ロゴを載せた「野帳（ノート）」を作っています。自分用だけでなく県外の方へのお土産として使っていただき、地元企業や山口に愛着が湧くようになってもらえたらいいと考えています。



そえぶみ箋

また、県内の作家さんに山口ならではの商品を作ってもらい、「やまぐちパトロン」コーナーを設けています。萩焼の文房具や、岩国ガラス・大内塗の小物、山口県産木を使った筆記具など、ここでしか買えない商品が並んでいます。

仕入れは店内に統一感を持たせるため少人数で行っています。これまで蓄積してきたデータで選んだり、各地に足を運び驚きを感じるものや面白い商品を見つけるよう心がけています。以前に比べ、個性的な商品を生み出す小さなメーカーとの取引が増えました。

## ●今後の展開 ～ 地域に根差した商売を ～

現時点で新たな店舗を出店するというようなことは考えていません。今後も山口と地域のお客様とのつながりを大切にしていきたいので、地元で根付いた地元の特徴を生かした物販を目指していきたいです。いまは何事も変化が大きい時代ですので変化に合わせて自分のスタイルを柔軟に変える必要もあると思います。



山口ならではの商品が並ぶコーナー「やまぐちパトロン」